



サイクル部 主将  
法学部政治学科3年  
おぼらりょうた  
小原良太君

## 雨にも 風にも負けない旅

# 旅

<sup>あえ</sup>喘いで登る坂も、人々との出会いも  
すべての経験が僕たちを成長させる

旅のカタチはさまざま。法学部3年の小原良太君は、自転車でのツーリング旅行を楽しんでいます。

学生公認団体のサイクル部に所属し、休日は三浦半島など近郊への100km前後の日帰りサイクリングを行います。そしてメインイベントはやはり夏休みの長期合宿旅行です。

旅に出よう。  
旅は新しい発見と出会いの泉だ。  
特に感受性が豊かな若い日の旅は、視野を広く、精神をたくましく、成長させてくれる。  
目的はあってもいいし、なくてもかまわない。  
見知らぬ土地へ行き、初対面の人と言葉を交わすことが、新しい自分の発見につながる。  
学生時代の夏休みは、人生の中でも旅に絶好の時。  
まだ見ぬものに思いをさせ、いざ旅に出よう。

2年生有志が独自の計画を立ててメンバーを募る方式で、複数のチームが北海道や九州、四国の大自然の中を、1〜2週間のツーリングに挑戦します。昨年夏のステージは北海道。小原君がリーダーを務めたチームは函館から宗谷岬まで、13日かけて北海道を縦断しました。

「どのルートを選ぶか、キャンプ場などの宿泊地はどこにあるか、上り下りの高低差はどうなっているか、いろ





いろいろなことを調べてプランに肉付けします。洗濯機が使える場所のチェックも重要です」

チームは7名。2年生の小原君とサブリーダーが、1年生5名を引っ張りました。

「電車や自動車の旅では見過ごしてしまう場所で、湖の美しさに見とれたり、トウモロコシ畑を渡る風に吹かれてみたりと、自由に寄り道できる機動性は自転車ならではのもの。一方で、焼けつくような炎天下でも、冷たい雨が降っても、強風にあおられても、ありのままの天候を受け入れて走るのが、自転車の宿命。うんざりする上り坂もあるし、ブレーキの信頼性が試される曲がりくねった下り坂もありま

## 旅に出たくなる本



『あゝ空の下で』  
吉田修一著  
木楽舎／定価1260円

す。そんな変化に富んだ道を、時には歌を口ずさみ、時には自分の息づかいを聞きながら、ペダルを踏みしめて前に進むのが、自転車の旅の醍醐味です」

1日の走行距離は平均70km。パンクやスリップ転倒など、小さなトラブルは茶飯事。それでも2、3日走ると1年生の走



りも安定し、精神的にもたくましくなり

ます。「あるキャンプ場で料理中にガスボンベが空になり、リーダー失格だと落ち

込んでいると、1年生が使いかけのボンベをどこからか拾ってきて、「大丈夫ですよ」と励ましてくれたこともありました」

自力で走り抜くしかない自転車の旅は、わずかな期間で1年生を大きく成長させ、またリーダーを経験した2年生はひとまわり大人になります。

出会いも、旅の大きな楽しみ。苦小牧では、地元農家の人からトウモロコシをいただき、そのおいしさに感動。また同じく自転車旅行中の台湾人老夫婦と親しくなり、その夜のキャンプ場でツーリング話に花が咲いたこともあり

ました。「合宿旅の最大の喜びは、目標まで走り切った達成感。しかし、その途中での経験や人々との出会いも、一つ一つが大切な思い出になっています」

田舎の駅で、「ここでもいいからふらつ

と飛行機に乗って旅をする」という男に  
出会い、軽い反発を覚えた少年が、大人  
になって同じことをしている（「モダン  
タイムス」）。出会いや別れの記憶を綴り  
ながら、直接に旅を描くことなく旅情を  
かき立てる短編小説&エッセイ集。航空  
会社の機内誌での連載をまとめたもの。



『転がる香港に苔は生えない』  
星野博美著  
文藝春秋／定価1040円

題名の由来はA rolling stone gathers

no moss. イギリスから香港が中国に返  
還されたのは1997年7月1日。学生  
時代に交換留学生として滞在した香港の  
歴史の変わり目を、そこに住んで体験し  
たいと、約2年間滞在した日々を描いた  
長編ノンフィクション。香港の街と人が  
好きになり、行ってみたいくなるかも。



## 旅行貯金

預金通帳に記帳をすると、出入金を行った支店の店番号が書き込まれるのが一般的だが、一部の金融機関では支店の名称が記入されることをご存じだろうか。ごく少数の銀行が、自行ATMを利用した際に印字するほか、窓口でゴム印を押してくれるケースがあるのだ。



このシステムに目を付け、各地にある当該金融機関の支店やATMで出入金と記帳を行うのが**旅行貯金**だ。全ての支店を制覇するという、熱い思いに支えられた趣味であると同時に、入金さえし続ければお金も貯まるという、一石二鳥の旅なのである。コンプリートは無理でも、旅行のついでに行う程度なら、良い思い出となるのではないだろうか。旅のお供に預金通帳を連れて行ってみたいはいかが？

## 番外編

### マイル修行………？



学生の諸君にはまだ早いですが、旅の結果として各地を「めぐる」ことになるのがこのマイル修行。航空会社のマイルージをためるべく、ただひたすら飛行機に乗り続ける行為を指す。より少ない費用でより多くのマイルージがたまる路線を求め、国内はもとより、アジアの空港を行ったり来たりするのもザラだという。まさに修行である。修行僧とも呼ばれる彼らを駆り立てるもの、それは主としてマイルージプログラム上級会員資格の獲得だ。航空各社のマイルージプログラムは、出張の多いビジネスマンや、単価の高い富裕層の乗客を囲い込むべく、上級会員の制度を用意している。1

年間の搭乗回数と飛行距離の条件をクリアすることで、一般の乗客にはない、さまざまな特典が提供されるのである。たとえば、フライトマイルージの特別加算、搭乗手続き・手荷物扱い・キャンセル待ちでの優先より豪華な専用ラウンジの利用、座席アップグレードクーポンの提供など、飛行機を多く利用する人間にはうれしい特典が多数用意されているのだ。

### 実利に

適うだけ  
でなく、ステータス感と優越感をもくすぐる上級会員を目指すし、修行僧たちは今日も空を飛ぶ。



用できるようになっている。時期や路線によっては、半額近くに割引引かれることもあるようだ。

ただし、事前予約は不可で、搭乗したい日に空港へ行き、空席がある場合に購入できるようになっている。事前に航空会社への会員登録が必要なほか、場合によっては通常の割引運賃の方が安いこともあるので、じっくりと下調べをしてから利用したい。

交通費だけでなく、塾生限定で宿泊費を節約する方法も存在する。学生健保（学生健康保険互助組合、P.36参照）が契約する宿泊施設なら1泊2食付きで5000円前後と、割安で利用することができるのだ。その他、義塾が運営する立科山荘（長野県北佐久郡立科町）と、三四会（医学部同窓会）が運営する赤倉山荘（新潟県妙高市）も同程度の料金で利用でき、塾生の福利厚生に便宜を図っている。利用条件や手続き方法など、詳しくはそれぞれのWebサイト等で事前に確認してもらいたい。

### 学生健保

「健保の手引き」

URL: <http://keikokenpo.web5.jp/>

### 立科山荘

三田：管財部、SFC：事務室学事担当  
その他：各地区学生生活担当

### 赤倉山荘

URL: <http://www.sanshikai.jp/akakura/index.html>



## 列車にゆられ、青春あつちこつちの旅

「旅行が新幹線や飛行機での移動なら、夏休みの旅は、在来線の列車にゆられたい。カタンコトン、レールが奏でる音を子守唄に、うとうとと、幸福にうたねしたい。」

——鉄道ファンは果たして旅が好きなのだろうか。鉄ちゃんたちの興味対象は車両、ダイヤ、線路、模型など多岐にわたり、皆が皆、列車に「乗る」とを趣味としているわけではない……と、日吉にある鉄道研究会の部室を訪ねれば、二人の塾生が出迎えてくれました。お二人さん、唐突ですがやっぱり旅は好きですか？

**河野** 僕は基本的に撮り鉄ですが、列車で旅するのも好きですよ。中学時代、寝台特急に乗ったのがきっかけで鉄道に興味を持ちました。鉄道模型を集めるようになり、やっぱり本物も見たいと、好きな車両に会いに行き……行くとなればやっぱり鉄道での旅になりますよね。

——よかった、河野君は旅好きだった。一方の尾形君はどうですか？

**尾形** 僕はいわゆる乗り鉄なので、もちろん好きです。中学生のときに友人に誘われ、青春18きっぷで九州、北陸

を旅して鉄道にはまりました。夜行列車の「ムーンライトえちご」「ムーンライトながら」に乗り、九州では特急「ハウステンボス」など都心では見られない斬新なデザインの列車に感激したり、北陸では国鉄時代の古い車両を改造した「食パン」と呼ばれる顔の平たい電車に出会って、これまた感激。それ以来ずっと乗り鉄です。

——寝台特急やムーンライトなど、夜走る列車が魅力のようです。

**河野** 車内で夜中にふと目が覚めた時



鉄道研究会 経済学部2年 尾形康介君  
経済学部2年 河野維一郎君

が好きですね。列車は見知らぬ駅に

停車していて、がらんとした薄暗いプラットフォームには人気がなく、遠くの方には留置された機関車が黒々と見える。そんなちよつとセンチメンタルな光景が旅情をかき立てます。

**尾形** 夜行列車に限らず、ひとり旅はその孤独感がいいのですが、何日か旅を続けていると、だんだん話し相手が見つかり、自分はさびしがり屋だったんだ、なんて気づいたりして（笑）。そんなとき乗り合わせた人から、「学生さん？どっから来たの？」などと声をかけられるとうれしくなっていて、いろいろな話してしまいます。これもまた旅の楽しみですよ。

**河野** 地方で出会う人は、みんな旅人に優しいですよ。

——もうすぐ夏休み、鉄道研究会らしい「旅のススメ」はありますか？

**河野** 列車を乗り継いで、長い旅をしてみてはどうでしょう。在来線でのんびりと時間を気にせず旅ができるの



は、学生の間だけ。地図と時刻表を頼りに、成り行きまかせで旅に出てみては。尾形 できれば一人旅を経験してほしい

## 《鉄道唱歌》と《若き血》

法学部 准教授 片山杜秀 かたやまもりひで

いですね。誰にも気兼ねなく、思いつくまま好きなように動けるのはやはり楽しいです。列車が遅れて乗り継ぎで

さず、見知らぬ街で急いで宿を探さずんていう想定外の事態に、独力で対処するのも一人旅の味わいです。

1937（昭和12）年、《新鉄道唱歌第一編》がラジオを通じて発表された。歌いだしは「帝都をあとに颯爽と」。東海道線を行き来する特急の勇姿が綴られる。作詞は歌人の土岐善麿、作曲は堀内敬三。堀内は慶應義塾の応援歌《若き血》の作詞作曲者でもある。

神戸に着いて宿に泊まり、「明ければ更に乗りにかえて山陽道を進ままし」と鉄道の旅の続行を決意して結ぶ。通して歌うと30分近く。

短めにするのが、日本人好みの2拍子なのだ。《鉄道唱歌》の「汽笛一声新橋を」のところは拍子を取ると「ピョンコ・ピョンコ・ピョンコ・ピョンコ・ピョンコ・ピョンコ」である。

《新鉄道唱歌》というくらいだから当然「新」ではない《鉄道唱歌》もある。歌いだしは「汽笛一声新橋を」。1900（明治33）年に作られた。作詞は国文学者の大和田建樹、作曲はもとと雅楽の楽人だった多梅稚。その旋律は今日も駅や車内放送のチャイムで親しまれている。

明治時代に新橋から神戸までどれだけかかったろうか。1896（明治29）年の急行列車だと約17時間である。ところが、1930（昭和5）年の特急列車なら東京と神戸はもう約8時間。《鉄道唱歌》を半時間も歌うのは時代に合わない。土岐と堀内の《新鉄道唱歌》は5番までしかない。スピード時代というわけである。

《新鉄道唱歌》もリズムの面では《鉄道唱歌》を踏襲している。「帝都をあとに颯爽と」も「ピョンコ・ピョンコ……」と全く同じに行く。

《鉄道唱歌》は大長編。新橋を出た列車は東海道を下る。歌詞は品川、大森、川崎と進んでゆき、第34番で名古屋に、第46番で京都に至る。最後は第66番。東海道線の終点、

《鉄道唱歌》は俗に言う「ピョンコ節」のリズムで貫かれている。兎が「ピョンコ」と跳ねる姿を思い出そう。2拍子と言えば2拍子だが、前が少し長め。「イチ・ニ」よりも「オイッチ・ニ」と弾みをつけて前を長め、後ろを

そのようにして《鉄道唱歌》も《新鉄道唱歌》も、弾むようなリズムによって東海道を突き進んでいる気にさせてくれる。そして実は、《新鉄道唱歌》と同じく堀内敬三の作曲した《若き血》にも「ピョンコ節」は組み込まれている。たとえば「若き血に燃ゆる者」の「かき」や「にも」や「るも」の箇所。ここは「ピョンコ」と取るところだろう。東海道を旅するときも塾生塾員が肩を組むときも、日本人の血を騒がすのはいつも「ピョンコ節」なのである。

